

平成30年6月7日
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

標 題	2億1千万円に向け、益田アムスメロンが初出荷！ ～栽培環境の見える化で目標達成を～
-----	--

(ダイジェスト)

5月28日、販売金額2億1千万円（前年実績2億円）を目標としている益田産アムスメロンが初出荷されました。

農業普及部では昨年度から産地の目標が達成できるよう新たな取り組みとして、ハウス内温度や日射量等を見える化し、これらのデータと篤農家の技術を組み合わせ、産地の維持・発展を支援しています。

今年産のアムスメロンは生産者64名（昨年69名）、栽培面積11.6ha（前年12.1ha）で、県内と大阪市場を中心に出荷（目標77,000ケース）されます。出荷ピークは6月中旬で、7月初旬まで出荷が行われる予定です。

前述のとおり、近年生産者数が減少しており、40年を超える歴史ある産地の篤農家技術の継承が大きな課題となっています。また、新規就農者の早期技術習得も課題であり、更には昨今、常態化している異常気象への対応も求められています。

そこで当普及部では、昨年度から新たにICT技術を活用して、ハウス内の温度、地温、日射量、土壌水分度等を測定・記録できる機器とメロンの生育状況を撮影するカメラを設置し、離れたところからでもハウス内の環境が把握できる取り組みを行っています。そして、それらのデータの収集を行い、気象変動に対応した技術指導や収穫適期の設定など高品質なメロンの安定生産に役立てています。

本年度も同様に設置しており、生育状況や病害虫の発生状況の把握、収穫適期の見極めに活用し、産地の維持発展を図ることにしています。



【益田アムスメロン】



【初出荷式の様子】



【測定・記録機器】

30	担当者	益田北地域振興課	山本 樹	TEL0856-31-9615
----	-----	----------	------	-----------------